



# 2015-2016年度 広島北ロータリークラブ週報

世界へのプレゼントになろう

国際ロータリー会長 K.R.“ラビ”ラビンドラン 氏  
国際ロータリーテーマ

Be a Gift to the World  
世界へのプレゼントになろう

■会長 山下 正司 ■幹事 上河内 裕司  
事務局 広島市南区松原町 1-5 ホテルグランヴィア広島 6F  
TEL 082-506-0050 FAX 082-506-2530  
E-Mail:hnrc@world.ocn.ne.jp URL http://www.hnrc.jp/  
例会 毎週木曜日 12:30 ホテルグランヴィア広島

■本日の例会 2015年8月20日(木) 第2236回  
【東 良輝ガバナー公式訪問】  
黙祷  
ロータリーソング 「われらの生業」  
来客紹介 親睦委員会  
連続出席表彰  
会長時間  
幹事報告  
委員会・同好会報告  
ニコニコ箱  
卓話時間 『公式訪問に際して』  
国際ロータリー第 2710 地区  
ガバナー 東 良輝 氏

今日の卓話の時間では山本忠男会員にその貴重な実体験をお話頂きます。私の祖母と母親も同じ被爆者でした。母をかばった祖母の背中には大きなやけどの跡が残っておりましてのでとても人ごととして聞くことは出来ないと思います。後ほどよろしくお願ひいたします。  
もうひとつ今日は青少年奉仕委員会で応援して頂いています、小さな祈りの影絵展が平和公園入り口で開催されています。是非皆さんで出かけてあげてください。

前回の例会 2015年8月6日(木) 第2235回

黙祷  
国歌斉唱  
ロータリーソング 「奉仕の理想」  
四つのテスト唱和 職業奉仕委員会  
来客紹介 親睦委員会  
会員誕生日お祝い  
会長時間  
幹事報告  
委員会・同好会報告  
ニコニコ箱  
卓話時間 『被爆と私の人生』 山本 忠男 会員

## 会員誕生日お祝い



前列左から、深川会員・石田会員・中尾会員・福田会員・山下会長  
後列左から、宮本会員・丸本会員・越智会員・畑 会員・久保(雅)会員  
(土井会員・迫会員) おめでとうございます!

会長時間 会長 山下 正司

皆さんこんにちは 八月に入り夏本番です。  
とても寝苦しい夜が続いておりますが体調不良を起こされている方はおられませんか? 決して無理をせずこの暑い夏を元気で乗り切っていきましょう。  
今日は例会終了後に第1回クラブ協議会がありますので、これに出席の為、小川ガバナー補佐と瀬川補佐幹事にお越しいただいております。後ほどはどうぞよろしくお願い致します。  
さて、8月は会員増強・新クラブ結成推進月間(今までは会員増強・拡大月間)となっております。今月第3回例会では職業分類・会員増強委員会担当のプログラムを組んでおりますので、皆さんと会員増強について考えてみたいと思います。  
RIでは会員増強に尽力頂いた会員に対して推薦人数に応じて様々な色のバッジを送り荣誉をたたえております。是非皆さんもチャレンジして頂けたらと思います。  
又、本日は8月6日広島にとっては忘れることのできない、原爆投下悲劇の日です。  
この悲惨な体験をされた会員が広島北RCにも何人かおられますが、

## 小川嘉彦ガバナー補佐 挨拶



8月20日の東ガバナーによる公式訪問に先だち、グループ6小川ガバナー補佐と瀬川ガバナー補佐幹事が例会に出席されました。

幹事報告 幹事 上河内裕司

《お知らせ》  
\*次週8/13の例会はお盆の為、休会とします。  
\*次回例会は8/20で「公式訪問」です。例会終了後にはフォーラムも開催されますので、そちらにも参加をお願いします。  
《ご案内》  
\*本日、地区大会の本登録のご案内をお配りしました。多数の出席をお願いします。  
《BOX配布物》  
\*地区大会本登録のご案内 \*ガバナー月信 \*ロータリーの友誌

委員会報告

青少年奉仕委員会 合田委員長

本日、広島平和記念公園の元安橋袂で行われる「小さな祈りの影絵展」を見学し、懇親会を開催します。

社会奉仕委員会 濱本委員長

8月12日(水)にマツダスタジアム正面広場において「打ち水大作戦2015ひろしま」を実施します。是非、多くの方にご参加を頂きますようお願いいたします。

親睦委員会 越智委員長

次週8月12日(水)マツダスタジアムで開催する「夏の家族会」ですが、観戦チケットをお帰りの際にお配りしますので、枚数を必ず確認してください。

財団プログラム委員会 佐々木委員長

11月3日に開催される「ひろしま国際平和マラソン」にEND POLIO NOWのTシャツを着て、挑戦しようと思います。ご案内をお送りしますので、是非、一緒に参加してください。

同好会報告

ゴルフ同好会

8月優勝者

山内 盛利 会員

準優勝

島本 章生 会員



ニコニコ箱

ニコニコ委員会

《自主出宝》

山下(正)会員・東会員・上河内会員・坪内会員・合田会員・藤田会員・吉永会員 大変大変暑い中、小川がハナー補佐、瀬川がハナー補佐幹事、ようこそお越しくださいました。例会終了後のクラブ協議会もよろしくお願ひいたします。

中尾会員・三宅会員・岸本会員・福田会員 山本忠男さん、本日の卓話をよろしくお願ひします。戦後の懐かしい生き様など期待しています。これからも頑張ってください。

原田会員 山本忠男さんの卓話、楽しみにしています。

福田会員 お陰様で、昭和4年生まれの八十路の八十才後半に入りました。皆様のご支援を頂きながら、もう少し生涯を楽しみたいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

畑会員 本日は、誕生日のお祝いを頂き、ありがとうございます。四捨五入するとギリギリ50才の最後の歳となりました。

山内会員◇◇ 2日に行われた多打喜会例会、先ず優勝で1枚、1アンダーで1枚、ニアピンで1枚、そして同伴競技者に感謝して1枚、合計4枚出宝します。有り難うございました。

島本会員◇ 先日の猛暑での打喜会で、準優勝とニアピンをいただきました。アンダーではありませんでした。ということで、2枚出宝させていただきます。

久保(豊)会員 多打喜会でニアピン賞をもらいました。

山坂会員 8月11日に鉄ぱん屋弁兵衛横川店をオープンします。よろしくお願ひ致します。

山下(正)会員・東会員・中山会員・下川会員・岡部会員・越智会員・上田会員・小林会員・畑会員・桑村会員・武部会員・合田会員 山坂さん、パルコムエミュ10店目の「鉄ぱん屋弁兵衛 横川店」8月11日オープンおめでとございます。

当日計 33,000 円(内、web 11,000 円) 累計 179,000 円

★=10,000 円 ☆=5,000 円 ◆=3,000 円 ◇=2,000 円

卓話時間

『被爆と私の人生』

山本 忠男 会員



山本忠男でございます。今日は私が被爆をしまして70年ということでございます。

先日、クラブ管理運営常任委員長の石田の平ちゃんを通じまして、「山本さん、8月6日に卓話をやってくれんか」ということ

で、ここに今、立っております。

ちょっと、この上着を脱がさせていただきます。これが原爆を受けたときの上半身の姿であります、小学校の5年生のときに爆心地から2kmの皆実小学校の校庭で遭いました。今日は私のその被爆体験、そしてそれからいろんな運命、希望、努力、母に感謝ということ、順番にお話しさせていただきたいと思っております。

8月6日の朝、7時過ぎに警戒警報のサイレンが広島市内に鳴りました。警戒警報というのを知っておられる方もたくさんおられると思いますが、敵機が遠くだけどこっちに向かっているよということ、市民に伝えるのが警戒警報です。

7時ちょっと過ぎだったと思いますが、それが解除になりまして、解除のサイレンが鳴りました。

私は小学校に、5年生ですから行こうと思っておりましたときに、母が「今日は休みなさい」と、こう言ったんですが、休めと言うから行きたくなるのが人間でございます、私と四つ上の姉が、姉も今日は友達と待ち合いて、解体しておるところのものを、全部掃除をするということで行きました。

それで小学校に行きまして、校庭で3人の友達とで遊んでおりましたら、飛行機が飛んでおりました。「ああ、B29が飛んどるのう」、言うて、といいますのも、広島には攻撃が1回か2回爆弾が落ちたような気がしますけど、ほとんどなかったの、「いやいや、飛んどってもええじゃないかのう」ということで続けて遊んでおりましたら、突然そのときに爆発が生まれて、校庭のところから約20mぐらい後ろの校舎が、2階建てがペしゃんと、崩れておったんですが、そこまで爆風で飛ばされて、気がついたら、自ら爆風、校舎のところで頭を挟んでおまして、それをこう、むげていったんですが、体はご存じのように、頭から、この顔から、この胸と喉と足と両手、もうどういいますか、皮はむげて、ブクブクとたくさん剥げが出ておまして。

それでも、どういうもんですか、私なりにちょっと話を止めて言いますと、あのときに小学校は児童疎開で、田舎のお寺さんのほうへたくさん行った人が多いんですね。それで親戚とか何とかいって、行っておりますから、学校に生徒が非常に少なかったんですね。

ですからあれが、ああいう集団疎開がなかっておりましたら、まだまだたくさんの子供が死んでおったと思いますけれども、今もずっと私の頭に残っておるのは、なんで空襲警報のサイレンが鳴らんかったかと、こういうふうにおもっております。

空襲警報のサイレンが鳴りましたら、みんな防空壕に入らなくちゃいけなかったんですね。家のほうも皆、防空壕を掘っておりました。学校にもありました。しかし、サイレンが鳴らないんですね。いまだに不思議なんですね。それで悪い考えが、誰か、いつも鳴らす人間が鳴らさんでええ言われて、鳴らさんかったんかなと思っております。

ですから、あの空襲のサイレンが鳴ってましたら、社会人も全部、疎開の手伝いへ行っとる人も全部、防空壕に入っとるはずですよ。日本人というのは、そのサイレンで全部移動したり、潜ったり

するように訓練しておりました。そういう中で、私は3kmぐらい家まで歩いて、3人で歩いて帰ったときに、お互いの顔が分からないのですよ、もう。ベラベラベラとなって、今日こうやって脱いだのは、こっちの手はもうケロイドで、これがもうズルッていって、こうなったままであります。こっちもありましたけれども、これは治療のときの関係で、よくなっておりましたが。

お互いに「おまえの顔、どうしたんや」言うて、3人の小学校5年生がトコトコ、トコトコ。その時に校舎の上がペシャンコになつてくるわけですから、それを越えて行きよるときに、下のほうで「助けてくれー、助けてくれー」って言う声が聞こえとったんですが、助けに行けること、ないんです。自分たちのも、体がもう、どうにもならないのです。それで、3人で歩いて帰りました。

そして家の前で、おふくろが血だらけで立っておりまして、その前に立ちますと、おふくろは、怪訝な顔でまだあっちこっち見よるんですね。ふっと私の、ここに名前が書いてあったのを見て、「おお、おまえ、忠男か」と言うて、「うん」言うて。それで慌てまして、リヤカーで広島赤十字病院へ行こうということで行きよつたら、途中で姉が、四つ上の姉がまた、もうバラバラになってやら、歩いて帰ってきよつたんですが、それを私が見つけまして、呼んで、リヤカーに乗せて行こうとしたら、軍隊のトラックが宇品のほうから来まして、皆実町のところで「あんたらもこれ、乗れ」ということで乗せられまして。

御幸橋を渡ろうと思ったら、渡れないんですよ。人がたくさん死んでいて、私、それが目に映ったもので、いまだにこんなこと言うてええか分かりませんけれども、死体を海に投げておりました。もう超然と、もういっぱいになってしまつて駄目なんですね。この10歳の子どもに、いまだに忘れられないのは、どんどん海に投げておつたのを覚えております。

渡れないので、それで皆実小学校のほうに行こうというて、でも、皆実小学校は私がおつて駄目なのがおかつたのになら、やっぱり行つても駄目じゃつたんです。それで、今の県立広島病院、当時は陸軍病院だったんですが、トラックが入れたんですが、私が飛んで降りましたら、兵隊さんが「ばか者！」言うんですよ。「おまえ、重症じゃないか、乗っとけ」言うて、また乗せられまして、宇品の港の近くのほうにトラックで行きまして、そこで降りて、それでベタベタと白いものを体に塗ってくれるだけだったんですね。

それで、うちの近所の人が家まで連れて帰ろうということで、担架で連れて帰って、ちょうど今ごろの時間ですかね。それまで、そこで、ほっくり投げられとるの。たくさん、どんどん宇品のそこへ来るんですから。家のなかじゃないんですよ、道端でもう、そこで降ろされて、あれですから。

とにかくまず帰って、姉と一緒におりましたんですが、その六つ違いの一番上の姉が、当日朝6時ごろから、広島皆実高校がある、煉瓦の建物の中で、広島陸軍被服支廠で、あそこで一生懸命兵隊さんの服を作つたりなんかしておりましたんで、直撃には遭っていないから家まで帰ってきて、それで、おふくろとその長姉がついて一緒におりました。

私は5人兄弟なんですけど、一番上の兄貴と一回り違いますが、これが兵隊で満州へ行っておりまして、2番目の兄貴とは10歳違いですが、これが大竹の人間魚雷のほうへ行つて、勉強したりして、訓練しておりまして、それで後、姉、姉、そして私が末っ子であります。

家へ連れて帰ってもらつても、家も倒れておりませんけれども、防空壕のなかに寝せられておりまして、そして次姉を迎えに親が行きましたら、似島へもう乗せられて行ったということで、似島へ行きまして、それで私も次の日に乗せていただいで、似島に軍隊の船で行きました。

今で考えますと、あれが三途の川だと思うんですね。本当は川じゃない、海ですけどね。死人を作るために似島に送つたようなものであります。私も行きまして、それでもう皆、寝る。布団とかなん

かじゃないんですよ。あそこは馬を育てていた所ですから、もう、ムシロなんかの上でこう、ずっと寝て。それで、もう動けないもんですから。そこで次姉の行ったところを見つけていって、もうとにかく。

そうしますと、今でも忘れられないのが、夜、軍隊の兵隊さんが歩いてくるあの靴音、いまだに忘れようとしませんね。コツ、コツ、コツと靴の音がするんですよ。そうしたら「担架ー」って呼ぶんですよ。それで、今だったらあんなことをしたらあれでしょうが、こうやって人間、起こすんじゃないんですよ。足でクルッとやつたら、死んでいたらコロッと、こうなるんですね。それを「担架ー」言うて乗して、庭にこう、積んでいくんですね。私らも皆、見えるわけですね。それで、もうどんどん積んでいくんですね。

そのときに、私はもう一つ言いたいのは、水を飲みしちやいかん、水を飲みしちやいけんというのが、全市に早くわたつたんですが、誰が決めたんかと。誰がああいうことを言うたんかと。常に今でも不思議に思つとるんです。サイレンのことと、この水を飲んじやいけないというのが、今、この81歳になりまして、絶対忘れない、誰が言うたんか、誰がどうしたんかというふうに。水を飲ましてもらえないから、それで川へ飛び込んだり、家の前に防火水槽を皆、持っておりましてから、そこへ顔を突っ込んで水を飲んだら、そのまま死んだ人というのがおります。

ですから、なぜ水を飲んじやいけないということを、誰が言うていったと。うちのおふくろが似島で、そこで一升瓶をもらつて、水道の水を持って帰りました。これはうちのおふくろの性格なんですけど、周りの人にどんどん最初に飲ますんですよ。それであと、残りを私と姉に飲まして、それでまた取りに行くんですよ。

それを続けておりましたら、「ターちゃんや、もうここで水、取れんようになった」言うて言うんですが、私は動けませんから、じっとして。というのが、兵隊さんが水道を切つてしまったんです、水、飲みしちやいかんということで。それでおふくろは似島の山の上に行つて、井戸水をもらつて、それでまた持ってきて飲ましてくれておりました。

今、私がああいうこと、できるかと思うけど、おふくろはもうとにかく、水を何回も何回もくみに行つて、周りの人に飲まして、本当、最後に私、子どもに飲ますような母でありました。

それである日、中学校の人だと思ふんですが、「ただ今より帰ります！ 帰ります！」と言うて、立って出てきたら、「貴様、何言つてるか！ 重症じゃないか、お前」と言うて、怒つて、寝すんですよ。

3日目だったですかね。手を縛られて起きれんようにして、うちのおふくろが見とるんです。私、動けませんから。そしておふくろが「ターちゃんよ、あの子、今、死んだよ」ちゅうて。家に帰つたかつたと思ひますよ、親のところへね。

81歳になつても、そういうふう「生き」を見ますと、もう涙が出そうで言葉が濁るんですが。本当に三途の海を渡つて、「死」に行つたと。それで、あそこでどんどん船で、おそらく別の島に行つてやっぱり埋めたり、流したりしておると思ひます。

そこで、ここでまた私、地獄の沙汰も金次第というシーンを見ました。それはうちのおふくろが、うちで鉄工所をやつていましたから、金をちよつと持つておつたんでしょうね。夕方、あれは軍医かなんかでしょうけどね。医者はおらんのですから、全然治療はないんですよ。それで食べるもんもないんですよ。ただそこで、死骸になるだけなんですよ。

そうするとおふくろが、兵隊さんに何か渡していたんで。そうしたら、夜、暗くなつたら、兵隊さん、タターッと来て、パツと注射して、それでサツと行くんですね。それでまた次の日は、冷たいみかんの缶詰を持ってきて、それでおふくろ、また周りのものに食わして、あと残り、私らに食わしたんですが、地獄の沙汰も金次第だと思つております。でも生きた金を、おふくろは使つたんだなと、こういうふう思つております。

それで、そこでもうずっとおっても、これは駄目だと。もうウジ虫がいっぱい湧いて、ウジ虫、痛いんですよ。皮じゃない、肉のなかにずっとおって、もうこの辺からもう全部。頭はしっかりしとるんですよ、分かるんですが、動けないんですよ。

だけど不思議なんです、私、泣いたことがないんですよ、原爆に遭って。「お母ちゃん、お母ちゃん」とわんわん泣く、全然。それは、当時は軍国主義で、学校で配属の将校さん、あるいは軍人さんがおまして、みんな並んで入るんですが、生徒は少ないんです、集団疎開と縁故疎開に行っておりますから。それで並んで入って、門のところへ軍人さんが立っとなんで、わあ、軍人さんが立って。それで女の子は頭を下げて、男は敬礼せんにや怒られるんですよ。それでやっぱ、そういう、やっとなんで、私も大きくなったら兵隊になっていこうとものが、頭にありましたんで、怖さというのはなかったですね。とにかく、死の恐れもなかったですね。

そういうふうな環境で、似島で、これでおってはおもう駄目だろうということで、おふくろが親戚に、江田島の切串に山崎病院があるんだそうです。それで、そこへ連れて行かんや、これ、駄目ぞということで、親戚の漁業をやった人の船があった。今でも、どうやって連絡取ったんだらうか、よく分からないんですよ。携帯電話もあるわけじゃないですから、どうやって、分からん、いまだに分からん。

それが来て、それに乗って切串に着きまして、それで担架でその病院に行きまして、それで入りまして、診察室じゃないんですよ。通路みたいなどころがある、外のね。それで先生が来まして、「わあ、もうこりゃ、もう駄目じゃないか。ウジ虫が体の中において、こりゃ駄目じゃないか」言うて、言うんですよ。私は生きとるんですよ。2人とも生きとるんですよ。ウーッ、思っ。

せめて、ほいじゃあ、この今のウジ虫を取ってあげようということで、上から水がぶら下がったところで、こっちの手を持って、ちゃっちゃ、ちゃっちゃ、削るんですよ。それが痛くて、痛くてね。もう、やらないんでね。もう「痛い、痛い」言うて、こう言うて、言うたらおふくろが、「もうこっちはせんでもいいですから」いうことで。

だけど皆さん、こっちの手はケロイドが出なかったんですよ、そのおかげで。こっちはもう、腕が2本、こうあるぐらいの、なって。それで、もうこれは後ほど手術したんですが、ですからやはり、ウジ虫かなんか湧いたときに、きれいに、水でもいいから洗って落としたり、最後はこういうふうな格好で、落とさんかったらこういうケロイドが、もういっぱいあってですね。

それでおふくろと、おやじの親戚のお姉さんのところに、切串に、家に運ばれて。もう医者を入れてくれないんですよ。それでそこで2人が、こう寝ておまして。

治療は、なんもないんです。本当に治療がないんです。もう今の時代だったら、だいぶんの人が助かっておると思いますが、なんにもすることがない。自力でなんとか生きていくしかないんですが、そのなかで私の好きな姉が、四つ違いですが、一緒に並んどうしても、お互いの顔も動かされんのですよ、もう、こうなったままね。それでウジ虫はもう、いっぱい湧くしね。まあ、栄養がえかったんかどうかわかりませんが。

そうおすると、17日、原爆が6日に落ちて17日の夕方7時頃に、うちのおふくろが「ターちゃんよ」、姉は雪枝といいます、雪枝ちゃんのが、あんたの顔を見たいから、見してやる？」言うて。それで「ほれじゃあ、わしを起こしんさい」言うたら、姉が、「いいえ、私を起こして」と言うて、起こして、顔をこう見たときには、もうクチャクチャなんです。わしもクチャクチャじゃ、もうクチャクチャでね。ただ、そのときの目が非常に透きとおってね。本当に、優しい姉でしたらからね。

その姉がそのとき言った言葉が、私の人生を、今、助けてもらっとなんですが。「お母ちゃん、ターちゃんはね、私、もう駄目だから、助けてやってね」と、おふくろに言よるんです。それで私の顔を

見て「ターちゃんね、お母さんにね、助けてもらえよ」と、それで私が「何を言よるんや、何を言よるんや」いつてから、こう言うたんですが、夜の11時におふくろが「今、雪ちゃんが死んだわい」と。最期の言葉が、その交わりですね。それで、14歳ですよ。14歳の子が、自分はおもう駄目だから母ちゃんに助けてもらえよという言葉、一生忘れておりません。

それで焼くところがありませんので、おふくろはその近くのほうのところを掘って、そこで薪を持って行って、茶毘にするんですか、非常に、親として切なかったと思います。自分の子どもを目の前で焼かんにやいけんわけですからね。もう地獄も地獄ですね。

姉が死んだために、おふくろがもういつペン山崎病院へ飛んで行って、なんとか診てくれと言うたら、入れてもらって、その病院へ行きました。それで治療は多少受けておりましたが、ある日に、だいぶんよくなっておったんですが、まだ動けなかったんですね。

ある日に、先生がスーツと来て、わしの足のものところへ注射するんです。そのとき私は、5歳か6歳ごろジフテリアで、血清注射というのを打った。

これ、皆さん、覚えてってください。いわゆる馬の血なんだそうですよ。これは人間、1回しかできないんだと、打てないんだという、先生がそう言っていたのを、わしは子どもながらによく覚えてきた。それで先生、わし、動けないもんですから、先生が持ってきてこうやるから、あれあれ、あれじゃないかなと思ったんですが、おふくろももう忘れとって、それをポツと打ったんですよ。

打ったら私が、すぐ体が、全身がもう真っ赤になってから、もう息苦しくなったんですよ。そのときにおふくろが、うちの翠町のときに、隣がお医者さんだったんで、誰、あそこでもらったのか、注射が、なんか注入液を持ったの、それをパーンとやってから渡しよるんですよ。それで、いや、それはその前ですよ。

おかしくなってきた、先生がすぐ来て、いろいろと診よったんですがね。ほいじゃあ、ああ、もう亡くなられました、ああ、残念ですが。それで、なんまんだぶつ、なんまんだぶつ言うて、私、生きとるんですよ。もう、ほじゃから皆さん、人が死んでも15分は絶対にへりて言わないこと。本当に、生きとるんですよ。

それでおふくろが慌てまして、注射打ったらいいんですよ。それでね、その注射が効いたのかどうか分からんというてんで、私、目が覚めてきた。それで生きたんですよ。だけど、いったん死んだ人間が、ここに今、おるわけです。

どうぞ皆さん、ご家族が死んだり、知り合いが死んでも、そばで、ええ言葉は言うてあげてください。ああ、もう早よ死んでくれてよかったの、なんか言うたら、もうあの世まで持っていくようになりますね。これ、私は事実、ここに生きとるんですからね。そのときには、もう15分ぐらいは駄目だったらしんですよ。そのようなことで、血清注射というのは、人生で1回しか打っちゃいけないというようなことであります。

それで、やっとなんとか生きてきたときに、もうとにかく運命が、いろんなことがあるんですが、その都度助けてもらっとなんです。

9月に枕崎台風というのがありまして、鹿児島から。そこからずっと来て、切串に夜、うちの海軍におりました兄貴が、食べるものを持って船で来てくれておまして。それで、もう水がどんどんたまっとなんですが、そしたら「上に逃げましょう、上に逃げましょう」いうて言いよったの。それで敷布をチャツと切って、海軍ですから、わしをおぶったの。歩けんのですから。それでそこには長姉と私とおふくろと、その兄貴4人ですよ。

それで、外に出ようと思ったときに、おふくろが待てと。もう今からそこを出ても、水が来ると、もう駄目だと。だからこの2階に上がれと。2階に上がりました。外に出て、死んで、お父さんが探しに来て探されんかも分からんから、上に上がれと。

海軍の兄貴はすごかったですね。そのとおりでんねん、ハツとお

ふくろの言うこと聞いて、2階に上がってくれたんですよ。それで2階の部屋に入ったら、2階建ての病室で、真ん中に渡り廊下があって、こっちから山津波が来て、倒れて、こっちも倒れた。私はこの部屋におったの。それで天井に、もうここまで水が来とるもんですから、兄貴がもう持って、おふくろも持つとる。姉もぶら下がるとるんですよ。

そしたらもう、時間がちょっと経って、「忠男や、こらえてくれえのお。もう、わしはもう持てんわい」言うて、わしに押んで、それで手を離れたら、足が下に着いたんですよ。それも運命でね。非常にあれですね。そのおかげで助かりまして、朝方、「おーい、おーい」いうて、探しに来てくれました。そして親戚の人が、わしが寝してもらったところのおじいさんとおばあさんは、死んでおりました。もう埋まって。提灯持って、探して、10日間ぐらいで見つかったというんですが、そこにおったら私は死んどるんですが。

それで、今度はおふくろの里へ行こうということで、辺り、ワーツともう何もなくて、そしたら、おーい、死人がこっちにおるじゃん、こっちのほうじゃいうて、担架のとび隊でこう運びよったら、いや、まだ生きとりますからいうて、そういう状況で。そしたら、ああやって死んどる人は頭と足が出て、こうやってそのなかへ生えとるんですね。そしたら一緒に逃げましよう言うたおばさんが、そこで死んどったんです。非常に私にとっては、あれですね。運がよかったんですね。

今日は原爆の日ということで、ここでしゃべらせてもらったんですが、まだまだその後のいろんなことがあります、もう時間が来ました。ロータリーは時間を守らんにかいけませんので、いろんなものを考えておりましたが、まず一応そういうことで、現在おふくろと、その、死ぬときに私に、「お母ちゃんに助けてもらいんさいよ」と言った姉が、今も私を見守ってくれとるんだと思います。

私は心筋梗塞で2回救急車で運ばれても、助かっておるんです。だからこの今、人工人間で、この血管のなかにはステントというものが5本入っております。ですから、でも楽しく生きていくためには、やっぱり勝っていかんにかいけん、努力して勝っていかんにかいかんということで、一生懸命生きております。

どうもありがとうございました。

■出席報告 出席委員会

2015年8月6日(木) 会員数 89名

出席 74名 欠席 15名

来賓 2名 来客 0名 ゲスト 0名

7月23日例会出席率 100%

■来客紹介 親睦委員会

小川 嘉彦 様(G6ガバナー補佐)

瀬川 長良 様(ガバナー補佐幹事)

■次回例会 2015年8月27日(木) 12:30~

卓話 月間に因んで 職業分類会員増強委員会

食事 洋食

第1回クラブ協議会報告



例会終了後、小川ガバナー補佐と瀬川ガバナー補佐幹事にご出席頂き、第1回クラブ協議会を開催しました。

各テーブルで活発な議論がなされ、来る20日のフォーラムに向け、テーマを決

めることができました。

『小さな祈りの影絵展』支援事業

青少年奉仕委員会では今年も8月5-6日に元安橋袂で行われた「小さな祈りの影絵展」を支援しました。

当日は、影絵の制作に携わった中高生達が、平和公園を訪れた方々に影絵の説明を行うなど、熱心に活動をしていました。



夏の家族会 in マツダスタジアム

去る、8月12日(水) マツダスタジアムで行われるカーブ対ヤクルト戦を観戦する家族会が開催されました。朝から生憎の雨模様でしたが、試合は45分遅れで開始！全員でEND POLIO NOWのTシャツを着てカーブを応援しましたが、不甲斐ない試合でこの日は負けました。。残念！

雨の中、皆さん欠席することもなく集まり総勢141名でカーブを応援できて楽しい家族会となりました。(写真はHPをご覧ください。)



親睦委員会の皆様、準備・進行とお疲れ様でした！